

建設経済環境委員会

八ッ場ダムの現況を調査

建設経済環境委員会（土尻 滋委員長 ほ か5人）は、議会に提出された八ッ場ダム建設に反対する主旨の請願を審査するため、9月26日、群馬県長野原町の国土交通省八ッ場ダム工事事務所（やんば館）を訪問し、事業経緯や進捗状況などを調査しました。

また、建設技術の粋を集めたであろう公共工事の規模の大きさを目前にして、これまでの地域の方々の大変な思いというものを感じました。

また、建設技術の粋を集めたであろう公共工事の規模の大きさを目前にして、これまでの地域の方々の大変な思いというものを感じました。

八ッ場ダムは、利根川の治水・利水を目的に昭和27年に調査が開始され、以来、すでに58年が経過する中で、国が建設を中止すべきかどうかを検証しています。

また、ダム本体の工事を中止した場合に、利根川の治水のための護岸工事に、ダム本体の工事費以上の費用が掛かると試算されています。

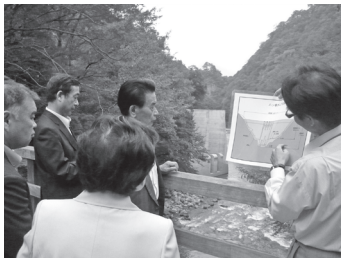
また、建設技術の粋を集めたであろう公共工事の規模の大きさを目前にして、これまでの地域の方々の大変な思いというものを感じました。

進捗状況については、国道や県道、JR路線の工事が90%、家屋の代替地への移転が87%終了しており、概ねダム本体の工事を残すのみでした。

建設現場を視察して、住民の方々の代替地への移転や、ダム建設と一体となる高架橋、砂防ダム、道路、トンネル、宅地造成等の生活再建がかなり進んでいる様子がよく分りました。

工事事務所の説明では、総事業費は4600億円、ダム本体工事には約600〜700億円が予定されています。残っている工事は、このダム本体を含め、約1000億円とのことでした。

建設現場を視察して、住民の方々の代替地への移転や、ダム建設と一体となる高架橋、砂防ダム、道路、トンネル、宅地造成等の生活再建がかなり進んでいる様子がよく分りました。



ダム建設予定地前での説明

原子力問題調査特別委員会

村長「意見を述べただけ。私は脱原発。基本的には廃炉だと思う」

東海第二原発を廃炉に 村長が原発相らに要望

10月14日、原子力問題調査特別委員会（村上邦男委員長ほか8人）は、10月11日に村長が細野原発事故担当大臣らに東海第二原発の廃炉を求める要望書を提出した、との報道について、村長に説明を求めました。

（村長） 私も村民から付託されている。村の将来を考え村民へ訴えていかねばならない。政策としてではなく、私の意見を述べただけ。（委員） 村長の目指す社会は脱原発か。（村長） その通りだ。私は脱原発だ。原発だけに依存するまちづくりにには限界がある。（委員） 今回の村長の行動や意見表明は原発を抱えた自治体の長として正当な行動。この意見表明にどれだけ多くの方が勇気付けられたことか。（委員） 今回廃炉を求めた理由は何か。（村長） 30km圏内に100万人もいるのは正しいのか。廃炉にすべきと問い掛けてきたし、基本的にそう思っている。住民投票等、議会と一緒に考えていく。

村長からは「大臣に手渡したのは要望書ではなく、メモ」「私の意見を述べただけ」「私は脱原発だ」などの説明がありました。

委員会で、村長の行動・方針を支持した委員もいましたが、強い非難や批判的な発言が相次ぎました。（委員） 重要事項を議会に一言も言わず政府へ直接話したのはなぜか。議会も含めた村民のほとんどが同じ方向だと受け取られるのではないか。